

平成30年 1月 市長定例記者会見

2018年 1月 4日(木)

午後 1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 お待たせをしました。

ただいまより平成30年 1月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

最初に、お知らせを申し上げます。記者クラブの異動により、本日初めてこの会見に参加されます記者の方をご紹介します。一言ご挨拶をお願いします。

【記者】 (挨拶)

【秘書広報課長補佐】 ありがとうございます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問については、事業発表についてからお願いいたします。事業発表の質疑応答終了後に、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行したいと思っております。

なお、ご質問の際は、ご自席のマイクのスイッチを入れていただき、ご質問の後は切っておりますようお願いします。

終了は14時30分を予定しております。ご協力お願い申し上げます。

それでは、市長、よろしく申し上げます。

【市長】 では、改めまして新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましてはご家族おそろいで輝かしい新年をお迎えになられましたこと、心からお喜び申し上げます。

また、新しい年になりましたので、さらに一生懸命業務に取り組んでまいりますので、敦賀市市政の発展のために、ぜひとも皆様のご協力もよろしくお願いいたします。

また、皆さんにとりまして幸多き1年になりますことをご祈念申し上げまして、挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、事業発表をお願いいたします。

【市長】 事業発表は本日、2つありますけれども、敦賀消防団出初式の実施についてということと、それから文化財火災防ぎょ訓練の実施についてでございます。

1つ目の敦賀消防団出初式の実施については、消防団員の士気の高揚を図るとともに、近代消防装備、精錬された消防団員の意気を公開することにより市民の防火意識を高めることを目的として、平成30年 1月 8日 月曜日に新春恒例の出初式を挙行します。また当日は、きらめきみなと館イベントホールにおきまして、敦賀消防団消防隊のつるが鳶によりますはしご乗りの演技を披露いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2つ目ですけれども、文化財火災防ぎょ訓練の実施についてでございます。

当訓練は、先祖から継承されている貴重な財産を火災から守り、長く後世に伝えていくために、消防職団員の防御活動技術等の向上と文化財保有関係者の初期行動力を高め、あわせて市民の文化財に対する関心と防火意識の高揚を図ることを目的として、毎年、文化財保存施設において実施しているものであります。第64回文化財防火デーを迎えるに当たり、平成30年 1月 27日に御名の日吉神社において実施いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただいま発表いたしました項目について質問を受けたいと思います。

最初に、幹事社さん、お願いします。

【記者】 ことしもよろしく願いいたします。

出初式のほうなんですけれども、鳶のはしご乗りは去年は中止になったんですね。ことは2年ぶりということで、久しぶりにというか2年ぶりに行われるということで、市長の何か期待というか、つるが鳶の演技にどういうふうなものを期待しているかとか楽しみなところとかはありますでしょうか。

【市長】 そうですね。ちょうど1年ほど前に事故がありましたので自粛しておりましたが、また鳶隊の皆さんがやろうという意気込みになっていただけて訓練を積み重ねていただきましたので、安全対策も十分にやりながらですけれども、演技を披露いたしますので、私も非常に楽しみにしておりますし、市民の皆さんも楽しみにしていただきたいと思っております。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社伺います。発表項目につきましてご質問ありましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 よろしくお願いします。

先ほどの質問で、はしご乗りの安全対策なんですけど、具体的にことは2年前までと何か違う対策はあるんですか。

【市長】 担当のほうから答えます。

【敦賀消防署長】 消防のほうからお答えさせていただきます。

昨年の1月7日に事故が起きまして、事故後、敦賀消防団長を委員長としましてつるが鳶事故検討会議を開催しました。これは全部で6回にわたって会議をしました。あわせて、負傷した団員及び乗り手と個人面談も実施をしました。

検討会の結果ですけれども、落下原因の明確な判定には至りませんでした。検討会では、1、落下した隊員の当日の体調が万全であったか。2番目としまして、演技の数が適正であったか。3番目としまして、安全対策が徹底されていたか。この3点について要因があったものと判断いたしました。

この要因につきまして、まず隊員の体調不良による事故防止策としまして、体調管理チェックシートを作成しまして訓練時に乗り手の体調を申告させるとともに、鳶隊長、番隊長の2名にて判断することとしました。

次に2番目に、乗り手の体力面及び精神面の負担軽減のためとして、1回の演技において、乗り手1人当たり25の技を披露しておりましたが、1人当たりの数を15までに制限することにしました。

3番目としまして、落下防止策として、命綱の着用徹底と安全装置の見直しを行いました。乗り手の命綱には、練習、本番にかかわらず着用を義務づける。そして安全帯につきましても、落下時に乗り手の荷重を分散させる製品を採用しまして、万一の落下事故における乗り手の負傷防止対策を講じることとしました。

以上です。

【記者】 詳しくありがとうございます。

1点だけ確認したいんですが、命綱というのはこれまでは全くつけていなかったんです

かね。

【敦賀消防署長】 命綱は、練習のときはつけていました。本番のときは一応外してやっていました。だけど、この検討会の結果、やっぱり本番も安全管理が第一ということで命綱の着用となりました。

【記者】 ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。

それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へと行きたいと思います。こちらも幹事社さん、お願いします。

【記者】 明けましておめでとうございます。

新春の先ほどの集いでしたかね、その中で高木先生が敦賀駅の東側ですか、あそこにアウトレットモールをつくりたい、そういう動きをやりたいみたいな話がありましたけれども、市としてそういうことを考えていらっしゃるのかどうか。誘致なり。

【市長】 いい発案だと思っております。

【記者】 いい発案。

【市長】 はい。まだそんな具体的にお話しできるものは何も今は持ってありません。

【記者】 はい、わかりました。

【記者】 明けましておめでとうございます。

最初の質問でちょっと原子力になるんですけれども、敦賀原発の2号機についてなんです、昨年末に規制委員会の審査が1年10カ月ぶりに再開されたということを受けて、改めましてこの規制委員会の敦賀2号機に対する審査について市長はどう思われるのかということと、仮に今後審査が進んで合格するというような方向になった場合に、市長として敦賀2号の再稼働に対してどう考えられているのかというこの2点をお聞きしたいと思えます。

【市長】 12月22日の会合ということで、その会合の中では確認や認識の共有が主に行われたというふうに聞いておまして、実質的な審査は次回以降になるものというふうに聞いております。次回会合が速やかに行われること、また前向きに速やかにしていただきたいということを日本原電、また原子力規制委とともに対応していただきたいというふうに考えています。

合格になったらどうするかというご質問ですけれども、規制委員会の規制というのは非常に厳しいものがありますので、その中で合格を勝ち取ることができれば、安全なものが確認できたというふうに考えればいいのかというふうに考えています。

【記者】 だから再稼働については、ちょっと容認と言うにはまだ早過ぎますけれども。

【市長】 そうですね。まだ、たればの話なので、まだ今の時点でははっきりと答えられるものではないと思っています。

【記者】 私もちっと原子力の話になるんですけれども、先ほど原子力機構の仕事始めの式でももんじゅの所長がおっしゃっていましたが、ことしはもんじゅの廃炉元年ということで、規制委員会のほうで廃止措置計画が認可されれば、本格的に燃料取り出し、2次系のナトリウムの取り出しという作業が始まってきていよいよだなという感じもするんですけれども、年も変わりましたし廃炉元年というふうな覚悟で機構のほうも臨むということなので、改めて市としてこの1年間、これから30年間続くことですが、改め

て市としてどういうふうに廃炉に対して向き合っていくのかという市長のお考えをお聞かせください。

【市長】 これからということになるんですけれども、申請が出されて審査中ということですので、まずはしっかり計画認可に向けて対応していただいて、安全、また確実に遂行しながら市民の信頼を得ていただきたいというのがございます。

もう一つは、廃止措置にかかわる取り組みにつきましては、もんじゅ廃止措置に係る連絡協議会などの場というのが設けられましたので、その中でしっかり立地としての意見というのも申し上げていけたらなと思っています。

あとは、進んでいく中でということで、将来的なものですけれども、1,000名の雇用の維持ということをして10年程度、またその後の地域振興ということも政府のほうで言われていますので、そういうことも具体的にどういうふうになっていくのかというのも見きわめていきたいというふうに考えています。

【記者】 あと、地域振興にも関係することも一部あるんですけれども、ちょっと原子力も含めて、そのほかの話題も含めてなんですけれども、敦賀市にとって、ことしもんじゅの廃炉というの大きな事業の一つにもなると思いますし、また県内的には国体も9月にある。市役所の庁舎の移転の計画も今年度本格的に進んでいくということで、かなり大きな事業が立て続けに今年度、まだ来年度にはなりますけれども、ことしじゅうに動き出していくということが予想される中で、市のトップとしてどういうふうにこの大きな事業の一つ一つ取り組んでいきたいか、指揮をとっていきたいかという意気込みといたしますか、ことしのお考えをお聞かせいただければと思います。

【市長】 ありがとうございます。

ことしは9月から国体が始まりますので、国体が6種目、また障スポのほうも2種目、エキシビジョンも2種目ありますので、合計10種目の競技があります。その中で敦賀市のことを知っていただいたり、敦賀市のにぎわいづくりにつながっていただければいいなということも思っていますし、また去年からプレ大会などで競技場でお店を出していただいてお土産物とか弁当とかを売っていただいて、結構それで意外ともものが売れるなというイメージを持っていた商売人さんがいるんじゃないかなと思っています。今回の国体の中でまたそういうものを売ったら、頑張ったら商売できるんだなという感覚を持っていた人たちがこの4年後、5年後の新幹線の開業のときに実際に商店を持って商売をしていただけるような形づくりをつくれたらいいなと思っています。

また、経済的なものとしましては、国体もありますし市庁舎もありますし消防庁舎もあります。また角鹿小中学校もございますので、そういう中でいろんな経済的な工事というのは出てくるんだろうと思います。また、新幹線も今、トンネル工事でしたけれども、これから明かり工事という外側の工事が出てきますので、いよいよ始まるなということも見えてきますし、駅の西のほうも立体駐車場をつくっていきますので、その中で経済的にも潤っていければということも思っています。それぞれ一つずつきちんと取り組んで、部署部署で責任を持って頑張ってもらおうというのが一番大事だなと思っています。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社伺います。ご質問ありましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 明けておめでとうございます。

さっき原子力機構の話が出たんですが、ふげんのことでちょっとお伺いしたいんですが、今年度末までに燃料搬出ということで、きょうの年始の式でもなるべく早期に計画を、具体的な計画を固めたいというようなこともおっしゃっていたんですが、市長はちょっと何か具体的な話が来ているのか、それともまだ来ていないのであれば、何か機構に対してコメントとか求めたいことがあればコメントをお願いいたします。

【市長】 11月17日の安管協で、搬出について技術的なめどが立っているとの説明があったというふうに聞いています。搬出に向けた検討自体は進んでいるということを知っていますが、具体的な報告というのはまだ受けていない状況ですので、早く早期に搬出の、どういうスケジュールになるのかわかりませんが、説明をできるものを持って早く来ていただきたいと思っています。

【記者】 ことしもよろしくお願いします。

先ほど、市政全般の話の中で新幹線のことでも出ましたけれども、あと5年ということになってきて、もう少し具体的な話を伺いたいんですが。

まず5年というのは、もう5年しかないのか、まだ5年あるというふうに、どのように受けとめていられるのかということと、新幹線が来て活性化させていくために特にこういう部分に注力していきたいという、そのような点をちょっと伺いたいです。お願いします。

【市長】 あと5年というニュアンスの中ではそんなに遠い将来じゃないというふうに思っていますので、平成34年度ですので35年春ということになると思いますが、残りそんな時間はないなというふうに思っています。

その中で景観まちづくり刷新モデル地区に選んでいただきまして、その3年の実施計画の中で24億の事業ということで、先ほども言いましたけれども、駅西の立体駐車場とか、またムゼウムの改築とかいろんなことを、本町の活性化とかいうことができますので、そういうところに取り組んでいかなければいけない。財源が出ましたのでいけるということになりますけれども、それができて、さあどうぞというわけにはいかないで、その後少し時間が要すると思うんですね。なれるまでの時間というのが要すると思いますから、残り時間はないと、急がなくてはいけないなというふうに思っています。

その中で、駅前と門前のほう、気比神宮あたりと金ヶ崎あたりというところをつなげていくのにぐるっと敦賀周遊バスの、ぐるっと回るのは8の字に回るようにしましたので、そういうことの工夫もやっけていながら、じゃ、それで効果はどうかというのをもう1回検証しなくてははいけませんので、そういう意味では残り時間がないというふうに思っています。

もう一つ、何でしたっけ。

【記者】 どのように活性化させていきたいかという、今おっしゃっていただいたようなことなんですけれども。

【市長】 そうです。その辺でつなげていって確認をしてもう1回ということと、さっき言いましたように商売人、要はハードだけをつくってもなかなか活性化しないでしょうから、そういういろんな可能性を秘めた敦賀の人たちを活性化できたらなと思っています。

【記者】 そろそろ新年度予算というところで着手を始めて、市長の1期目の最終年度というところに向けた集大成的な予算になっていくとは思いますが、その中で、ハーモニアスポーツ構想も含めてまだちょっと具体的に見えてこない面もあると思うんですが、そこ

らは最終年度にどういう形で事業を具体的に見せていくかというか。そういう考えがあったら、今の時点で結構なのでお伺いしたいなと思います。

【市長】 そうですね。気持ちとすると最終年度に向けてどかんと何か出したいんですけども、そんなことはなかなかできないだろうなというのがあります。

その中で、去年いろんなものがスタートしたり前に進んだりしましたので、それをもう一転がりでももう半分でも転がして前に進めていくというのが大事なのかなと思っています。ですからここで違うことをしようということではなくて、今までずっと種をまいて前に進んできた、何とか芽が出てきたというのを育てていきたいなという動きになるのかなと。あとは、国体があったりその前にI C O C Aカード、電子カードが使えるようになりますので、そのカードを使えたときの敦賀市の可能性というのがございますので、その可能性について少し検討しなくてはいけないと思っていますし。

もう一つは、人口の減少というのが、毎年500人ずつ減っているんですが、東日本大震災以降。生まれて死ぬ方という自然増減でなくて、社会増減の中で毎年400人ぐらい敦賀市は減っていましたけれども、その中で300人は3月末に出ていくと、入り繰りの中に出ていくと、4月に100人ほど入ってくるというのが、150人ぐらい入ってきてその間のところは減らなくなったので、平成28年度は130人ぐらいしか減っていないんです。ですから減らなくなった。要は、自然の状態では余り減らなくなったところに敦賀の、底打ちかもしれないかもしれませんし、魅力かもわかりませんが、あります。そうしたときに、出ていく人を抑えていくというのも、3月に出ていく人を帰ってくるようにするというのも一つのことなんですけれども。

それともう一つは、そういう状態になったときに、きっと保育士さんとか介護士の人とかいろんな働く人とか、要は労働者とか会社員さん、そういう人たちが足りなくなるのではないかなという気がします。そういうところの、ちょっと様相が変わってきたところに対する対応というのも一つ考えていかないといけないと。

具体的なものじゃなくて申しわけないんですけども、そういうことを漠然と考えています。

【記者】 ハーモニアスポーツ構想の具体化については何か。

【市長】 そうですね。ハーモニアスポーツ構想につきましては幾つかのテーマがありますけれども、特に水素につきましては、政府が水素社会の実現に向けて力を入れるということを表明されましたので非常に心強く思っています。その中で敦賀市が唯一の日本海側の拠点として立ち上がることができればいいなというふうに考えています。

【記者】 最後の質問ですけれども、ことしの、気が早いですが、年末、いや、12月議会あたりに2選目の意欲みたいなものを表明されるかもしれませんが、現状で今何か考えられることがあれば。ないならいいです。

【市長】 今ですか。今はもう当初予算を考えるのが精いっぱいでございます。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、これもちまして1月の市長定例記者会見を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

午後1時55分 終了